

命をつなく

小児がん

治療の

現場から

小

児がんを経験した子どもたち
の生涯にわたる健康を維持するためには、前回お話しした「晩期合併症(がん自体または抗がん剤や放射線などの治療の影響によって生じたと考えられる合併症)」の発見や治療につながる継続的な医療が必要です。これを「長期フォローアップ」と呼びます。

患者さんが過去に受けた治療内容を患者さんと医療者がともに丁寧に確認し、一緒に考えていく新たな医療の始まりです。その内容はがんの種類、治療法、遺伝性因子、患者さんの健康状態や健康習慣によって決まり、晩期合併症の兆候や症状について確認し、晩期合併症を予防または軽減する方法についての健康教育を行います。

わが国では、これまで日本小児がん研究グループ(JCCG)のメンバーが中心となり、治療サマリー、フォローアップ健康手帳として国独自のガイドラインの作成が進められてきました。

まず、治療サマリーについては、医療者と患者・家族が共有できる情報源で、晩期合併症の危険度評価やフォローアップを行う施設への情報伝達に役立つ道具となります。治療内容から再発や今後起こりうる晩期合併症、必要な検査とその頻度についての情報が盛り込

第11回

小児がんの長期フォローアップ(上)

治療内容の情報を共有 晩期合併症の予防・軽減へ

まれます。

フォローアップ手帳は、治療が終わるまでに患者さんにお渡しします。フォローアップ外来での診療の記録をつけながら、進学、就職などで住まいが変わったとしても日本中どこでもその継続に役立つ、患者さん自身の健康管理を主体的に行ってもらうことを目指しています。

そして、国独自の医療者向けガイドラインが2013年に完成し、21年に改訂されました。受けた治療の内容により、晩期合併症の危険度を6段階に分け、それぞれに合わせたような医療が望まれるか、間隔、定期検査の内容が推奨されています。使いやすいように晩期合併症ごとの解説、小児がんの種類に合わせた内容となっています。

子どもたちは体も心も必ず大人になっていきます。次回は、小児がんの子どもたちの長期フォローアップに必ず必要であるにも関わらず失敗の事例が多い「トランジション(成人期医療への移行)」についてお話しします。



あの頃は...

